

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530814

研究課題名（和文）米国家庭科スタンダードにみられる多文化社会におけるカリキュラム開発に関する研究

研究課題名（英文）Research on curriculum development about the multi-cultural society in the United States home economics standards.

研究代表者 佐藤 園 (SATO SONO)

岡山大学・大学院教育学研究科・教授

研究代表者の専門分野：家庭科教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：米国、家庭科、スタンダード、カリキュラム

1. 研究計画の概要

本研究は、わが国の家庭科の抱える根本問題である「家庭科の本質」とそれを達成するための「カリキュラム編成論」を明らかにするため、1980年代以降、若者の学力低下を克服するために行われた米国教育改革の結果、誕生した家庭科の National Standards と、それに基づいて開発された各州の多様な Curriculum Standards の収集と分析を通して、教科としての家庭科を構築するための教科論とそれを具体化するカリキュラム編成論を探求することを目的とするものである。

2. 研究の進捗状況

以上の目的は、申請当初は、4年間の継続研究によって達成する予定であった。しかし、2008年度、申請者が交通事故による入院と学部建物改修工事が重なったため、11月以降、研究を継続することができなかった。そのため、研究の繰り越し請求を行い、2009年度前半は、研究が行えるように環境整備を行った。後半に取り組んだ内容は、大きく分けると次の2点である。第1は、改訂された家庭科の National Standards に関してである。National Standards の内容を、改訂される前と比較し、「変更点は何か？」を具体的に明らかにしていった。今後は、可能であれば、「なぜ、そのような改訂が行われたのか？」について、National Standards を開発した関係機関やアメリカ家政学会等の関係資料から探ると共に、National Standards の改訂内容から、それを解釈していきたいと考えている。第2は、各州で開発された家庭科の

Curriculum Standards に関してである。主として、ERIC を用いて、アメリカの各州ごとに、家庭科の Curriculum Standards に該当するものはないか、調査を行った。開発されていた州で ERIC から Curriculum Standards のデータを取ることができない州に関しては、図書館を通じて、Curriculum Standards の収集を行っていく予定である。しかし、21世紀に入る直前に、アメリカでは、家政学が名称を変更したことから、家庭科の教科名も様々なものが用いられており、ERIC を用いた方法では、「家庭科に関する Curriculum Standards が開発されているのか否か」が判別できない州が多くあった。そのため、判別できなかった州に関しては、州の教育委員会のHPから、再度調査を行い、収集を続けていきたいと考えている。

3. 現在までの達成度

以上のような状態で、「④遅れている」と評価せざるを得ない。

4. 今後の研究の推進方策

当初は、米国全州における家庭科に関する Curriculum Standards の開発状況について調査し、開発された Standards 全てを収集・分類し、特徴的なものを分析していく予定であった。今後は、「網羅的な視点」ではなく、当初の研究の目的を達成するために、収集できた Standards から、分析枠組みを検討し直し、研究を進めていきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

| | |
|---------|------|
| [雑誌論文] | 該当なし |
| [学会発表] | 該当なし |
| [図書] | 該当なし |
| [産業財産権] | 該当なし |